

シエムリアップ MoiMoiライフ

ISSUE
80

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



- 小出陽子 (Yoko KOIDE)
- 1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年シエムリアップにレストラン Cafe Moi Moi をオープンする。同年 JST (NGO; アンコール遺跡の保全と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構) を設立し、農村地域の支援活動を始める。2013年「アンコールの都の西北」に公立のバイヨン中学校を創設し、運営を行っている。
- JST ホームページ <http://www.jst-cambodia.net>

MoiMoi Life in Siem Reap Thoughts on the History of Confectioneries

One of the traditional Cambodian desserts made of rice flour and coconut milk is similar to Japanese steamed cake, uiro-mochi. In the Edo-period, Japanese shogunate licenced trading ships may have carried confectioneries from South East Asia along with fragrant wood, fabric and sugar. During my stay in Japan, I visited a 600-year-old uirou-mochi shop named "Uirou" in Odawara. The Uirou family was originally running a thriving pharmacy business supplying Chinese herbs and thus involved in trading with the Ming Dynasty. Uirou-mochi was created using rare and high-price brown sugar when welcoming the diplomatic missions from Korea.

In Cambodia, sugar palm, sugar cane, and honey are abundantly available. Cambodians have been making sugar and sweet confectioneries at home. I imagine that sugar may have been powerful resource and possibly played a significant role in territorial expansion in the Angkor period.

お菓子をめぐる歴史ロマン

カンボジアには、米粉を主原料とし、炒った緑豆やバナナやカボチャなどとココナッツミルクを混ぜて作られた昔ながらの生菓子があり、やはり米粉で作られている日本の「ういろう」によく似ています。朱印船貿易の時代、香木、織物、砂糖などを求めて多くの日本人が東南アジアに渡りましたが、その頃にお菓子の交流もあったのでしょうか。

そんなかねてからの疑問を胸に、先日の帰国の折、小田原で600年続くういろう本店を訪ねました。中国にルーツをもつ小田原二郎(ういろう)家は、もともと南方の生菓を原料とした漢方薬を製造・販売する薬種業として栄え、明国との外交にも深く関わっていました。そして、李氏朝鮮使節団のもてなしの際に、当時、銀と同じ重さで取引されるほど高価で、貴族の栄養剤、気付け薬として仕入れていたサトウキビ(黒糖)を米粉に混ぜて蒸し、甘くもっちりとしたお菓子「ういろう」を創作したそうです。日本では、砂糖が貴重品だった時代が長く続き、庶民の口に

入る甘いお菓子が出回るようになったのは、ずっと後のこと。お菓子をめぐる交流についてはわかりませんが、そんな砂糖の歴史を再認識した訪問でした。

翻ってカンボジア。砂糖ヤシ、サトウキビ、蜂蜜等、甘味原料には事欠かない環境にあります。特にカンボジアの国木・砂糖ヤシの木は、農村部のほとんどの家に植えられ、樹液を煮詰めるかまども容易に手作り可能。昔から家庭で砂糖を作り、自家栽培の米で甘いお菓子を作ることができたわけです。そして、それが今でも庶民のお菓子としてカンボジア全土で作られ、親しまれているのです。

カンボジアの平野部では至る所に生育している砂糖ヤシではありますが、砂糖が貴重な時代や国があったことを振り返ると、アンコール時代には、王朝の勢力拡大にも貢献した貴重な資源の一つだったのかも知れませんね。そんな、お菓子をめぐる歴史にしばし思いを馳せているところです。